

そして、これからの富山の住まい



住まい博 富山 130

第25回住生活月間中央イベント
スーパーハウジングフェア in 富山

記録

平成25年10月19日(土)・20日(日)

住まい博 富山 130 実行委員会

目 次

開催趣旨	1
発刊にあたり	
●はじめに 住まい博 富山130実行委員会 会長 押田洋治	2
●ごあいさつ 富山県知事 石井隆一	3
合同記念式典等	
●高円宮妃殿下のおことば	4
●ごあいさつ 国土交通副大臣 野上浩太郎	
●オープニングセレモニー	5
●合同記念式典	
展示記録	
●会場案内図	6
●会場の様子	8
●住生活月間中央イベントゾーン	9
●公共的団体出展ゾーン	10
●企業出展ゾーン	12
セミナー・イベント等の記録	
●住まいのセミナー	22
●ステージイベント	24
●木とのふれあいコーナー	25
●屋外イベント	
●飲食・休憩コーナー	26
広報等の記録	
●ポスター、チラシ、パンフレット	27
●新聞広告、テレビ・ラジオCM	
●web、サイン	28
●新聞報道	
実施概要	
●第25回住生活月間、第25回住生活月間中央イベント合同記念式典	29
●スーパーハウジングフェア in 富山	
●住まい博 富山130	
●実施結果	30
●収支決算見込み	31
●事業推進体制	
●実行委員会・企画委員会等の経過	32
●実行委員会・企画委員会委員名簿	34
●住まい博 富山130実行委員会規約	35
●出展団体・企業等	36
●協賛団体・企業	37



「住まい博 富山130」の開催趣旨

1 とやまの住まいの概況

富山県の住まいは、長らく持ち家率や住宅規模などの指標で全国トップレベルにあり、砺波平野の「アズマダチ」や五箇山の「合掌造り」などに代表される地域風土に根差した建築文化が今も息づいている。

しかし、近年は建築産業の進展や生産体制の変化に加え本格的な少子高齢・人口減少社会の到来を迎え、核家族化の進展によるライフスタイルの変化などにより、県民の住まいに対する意識や価値観、ニーズは大きく変化してきている。また、一方で空き家が急速に増えその対策も急務となっている。

2 変化する社会

現代は労働力人口の減少や消費市場の縮小、地域コミュニティの衰退などといった社会経済環境の中にあって、住まいを取巻く状況も省エネや低炭素住宅・長期優良住宅等といった地球環境を重視した住宅、あるいは相次ぐ地震による被害から耐震性を重視した住宅にシフトしている。

一方でコスト意識の高まりの中、全国一律の建築・住宅文化が普及し、地域風土に根差した建築工法や職人に代表される地域の建築文化が衰退せざるを得ない状況となっている。

3 住まい博の開催意義

2年後に北陸新幹線の全線開通を控え、交流人口の大幅な増加が期待できる近い将来に備え、置県130年のこの機会に全国に誇れる富山県の住まいの状況を県民に周知するとともに、優れた富山の建築・住宅文化を県外の方にも広くアピールする今回の住まい博は、今後の新しい定住・半定住人口の拡大につながる契機であり大きな意義があると考える。

また、今回の住まい博では、これから住まいの可能性について、最新の情報を展示・解説することにより、県民の住まいについての意識を高めるとともに主要な地場産業のひとつである住宅産業の活性化を図るうえで意義があると考える。

4 住まい博の実施

住まい博では、安全性、防犯性の確保や環境に配慮した省エネ住宅のほか、高い耐久性やリフォーム等多様な課題に対応した技術・情報の提供の他、地域のまちづくりも含めた課題に対して建築・住宅・宅地等の関係業界が一致協力して「富山の住まい」について、県民全てがその素晴らしさを再認識し、後世に引き継いでいくためにわかりやすい情報や提案の他、見て・体験でき、楽しめる部分もある「住まい博」とする。

また、同時開催が予定される住生活月間中央イベント「スーパーハウジングフェア」ともタイアップし、置県130年を記念した「住まい博 富山130」を開催するものである。

開催テーマ「そして、これからの富山の住まい」

今回の住まい博のテーマは、「そして、これからの富山の住まい」としている。これまで富山県は住宅水準や住みよさで全国トップクラスを維持してきたが、これから未経験の人口減少・高齢化社会が進展する時代背景のもと、富山県の住宅や住まいのこれまでを振り返り、そして価値観の多様化した今、改めて今後を見据えてそれぞれにおけるこれからの住宅・住まいを考える機会としていただくため、このようなテーマとした。



はじめに

住まい博 富山130実行委員会
会長 押田 洋治

置県130年事業として実施しました「住まい博 富山130」は、高円宮妃殿下をお迎えし平成25年10月19日・20日の2日間、富山市の富山産業展示館で中央の住生活月間中央イベント「スーパーハウジングフェアin富山」と合同開催いたしましたが、県内外から約12,000人のご来場をいただき、無事に終了することができました。

この住まい博は、県内の建築・住宅関係団体や企業の方々のご賛同を得て実行委員会を組織し実施いたしました。当初は時間も資金も不足するなかで不安もありましたが幸いにも多くの団体、企業の皆様からご協賛、ご出展をいただきました。

ここにご支援とご協力をいただきました実行委員会委員の方々、そしてご協賛、ご出展者の皆様に、心より感謝申しあげます。また、開催に向けて何かとご指導、ご協力いただきました富山県及び住生活月間中央イベント実行委員会の皆様に対しましても深く感謝申しあげます。

テーマとして「そして、これからの中の富山の住まい」を掲げ、戦後の富山県の住まいの歩みから、これからの住まいの課題である耐震や省エネルギーをはじめとする最新の技術や各種機器の展示の他、国・県等の住宅政策についても情報発信いたしました。

現在、全国的に少子高齢化による人口減少社会が進展していますが、本県はこれまで各種住宅指標や住みよさで全国トップクラスにあり、今後ともその水準を維持するとともに、これからの富山の住まいを考える機会としていただくため、安心・安全や子育てと住まい・住環境を考えた家づくり等多様な「住まいのセミナー」も行いました。

また、新幹線開業を間近に控え、新しい定住・半定住の拡大や空き家等既存住宅のリフォーム活用の推進も期待したところです。

このイベントの成果が今後に繋がることを願い、公式記録としての報告書を作成しましたのでご覧ください。

今回の「住まい博 富山130」の開催を機に、富山県が「住みよい県」から更にステップアップし、「住みたい県」となるよう祈念しております。

平成26年3月



ごあいさつ

富山県知事 石井 隆一

置県130年を記念して、平成25年10月19日、20日の2日間にわたり、富山産業展示館において開催されました「住まい博 富山130」が、県内外から一万人を超える方々のご来場いただき、成功裏に終えられましたことは、誠に喜ばしい限りです。県内の建築・住宅関係団体をはじめ関係の皆様方の多大なるご尽力に心から敬意を表し感謝申しあげます。

本イベントでは、『そして、これから富山の住まい』をテーマに、全国第1位である持ち家率や1住宅当たりの延床面積など、本県の優れた住環境を広く紹介したほか、伝統的な住まいから最新の住まいに至るまでの様々な情報が提供されました。

同会場では、高円宮妃殿下のご臨席のもと、第25回住生活月間中央イベント「スーパーハウジングフェアin富山」も併せて開催されましたが、おかげをもちまして、子供からお年寄りまで幅広い層の方々に、富山の住まいについて理解を深めていただくことができました。

また、北陸新幹線の開業が迫る中、富山の「暮らしよさ」や富山ならではの魅力を発信し、定住・半定住の舞台としての富山をアピールする大変素晴らしいイベントになったものと思います。

今後とも、本県の優れた住宅や建築の文化を支えていくため、耐震性やバリアフリー性能等を備えた地球環境にもやさしい住まいで、それぞれのライフステージに応じた豊かな住生活が営めるよう、各種施策に積極的に取り組んでまいりますので、皆様方には一層のご支援、ご協力をいただきますよう心からお願い申しあげます。

平成26年3月



高円宮妃殿下のおことば

このたびは、殊のほか勢力の強い台風26号により、安心安全であるはずのお住まいにいらっしゃりながら被災された方が多くいらっしゃいます。命を落とされた方のご冥福を祈り、被害に遭われた方にお見舞い申し上げます。まだ続いておりますが、1日も早く、皆様が心の安らぎを取り戻されることを祈っております。

ことしも、皆様とともに、この住生活月間及び住生活月間中央イベントの合同式典に出席できますことを、大変うれしく思います。また、各表彰を受けられる皆様、おめでとうございます。

さて、国民の住まいや環境に関する意識向上のために、住宅関連の団体企業が一致協力して実施してきた住生活月間が、ことしで25回目となりました。本当に早いものだと思います。ことしは、エネルギー需給が変化する中、住宅の省エネルギー基準が大きく改正されるなど、環境に配慮した省エネルギー住宅が注目されています。また、企業の、高齢化社会の進展により高齢者などが健康に住み続ける住宅への関心も高まっております。今回の住生活月間中央イベントのテーマである「愛情いっぱい！省エネ・健康住宅—スマートウェルネス住宅のススメ」にもあるように、環境との調和を重視し、節電にも寄与しつつ、健康的で快適な生活を実施する住まいを国民が手に入れる機会をつくり出していくことが、豊かな生活の実現につながっていくことと考えます。

このような観点から、住宅関係の各団体企業が協力して、広く国民に呼びかける住生活月間中央イベント「スーパーハウジングフェアin富山」が開催されることは、大変意義深いことと思います。

本日の合同式典を初め、住生活月間の各行事が、国民一人一人にとって、住まいと環境、健康について改めて考える契機となり、豊かさを実現できる、実感できる住生活を実現することに大きく寄与することを、心より期待いたしまして、式典に寄せることばといたします。

野上国土交通副大臣のごあいさつ

冒頭私からも、台風26号でお亡くなりになられました皆様方のご冥福を心よりお祈り申し上げますとともに、被災された方々にお見舞いを申し上げたいと思います。

本日ここに、高円宮妃殿下のご臨席を賜り、第25回住生活月間の記念式典が開催されるに当たり一言ご挨拶を申し上げます。

住宅は、私たち国民が人生の大半を過ごす場であり、子育てやくつろぎの空間、仕事の疲れを癒やす憩いの場となる、生活の基盤です。少子高齢化が進展し、人口減少社会が到来する中、住宅に対するニーズは一層幅広いものとなっており、安心安全で、良質な住まいの確保が重要となっています。

こうした中、耐震化はもとより、高齢者を初め多様な世代が交流し、安心、健康、省エネでバリアフリーにも対応したスマートウェルネス住宅の実現といった新たな取り組みも求められています。

また、社会的な支援を要する方々への住宅供給も重要です。このため、公営住宅などの公的賃貸住宅を的確に供給し、維持管理とともに、民間賃貸住宅の活用も含めた、重層的かつ柔軟な住宅セーフティーネットの構築を目指しているところです。

さらに、これまで形成されてきた国富としての住宅ストックを有効活用することも重要です。2020年までに中古住宅流通リフォーム市場を20兆円に倍増させることを目指し、長期優良化リフォームへの支援、住宅ストック活用のための市場環境整備など、豊かな住生活の実現に取り組んでまいります。

ここ富山で開催される中央イベントを初め、住生活月間が、こうした住生活をめぐるこれからの諸課題を考える上で、貴重な機会となることを期待しております。また、本日表彰を受彰される皆様のご努力に深く敬意を表するとともに、今後のさらなるご活躍を期待いたしております。

最後になりますが、本記念式典の開催準備に当たった実行委員会の皆様に、心より感謝申し上げるとともに、関係諸団体のますますのご発展と、本日ご臨席の皆様のご健勝を心より祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。